

日刊大分建設新聞

平成 29 年 9 月 30 日付 1 面掲載

報告書を受け取る湯地所長



佐伯土木に被災調査を報告

防災エキスパート

県職員OBで組織する県防災エキスパート技術者の代表が28日、台風18号で大きな被害を受けた佐伯市内の土木施設の被害調査結果を佐伯土木事務所に報告した。

同事務所管内には、26日から3日間で延べ24人のエキスパートが入り、番匠川

水系や五ヶ瀬川水系で、護岸が崩れるなどの河川災害101カ所、また県道三重弥生線の路肩が流されるなどした道路3カ所の被害を確認した。

同事務所長室で、元企業局の森本倫弘さんが湯地三子弘所長に報告書を手渡した。

これに対し、湯地所長が「被災後の早い段階で、同行した若手職員に技術的指導をしながら、被害状況の

調査をしていたいただいたことに感謝する。災害査定はこれからが本番。速やかな復旧に取り組みたい」とお礼を述べた。

森本さんは「個人的には、2年の豊肥大水害に匹敵する大きな災害と感じた。短時間にもものすごい量の雨が降ったため、護岸の底が洗われて、護岸崩壊や越水につながったと思われる」などと話した。

(加藤)